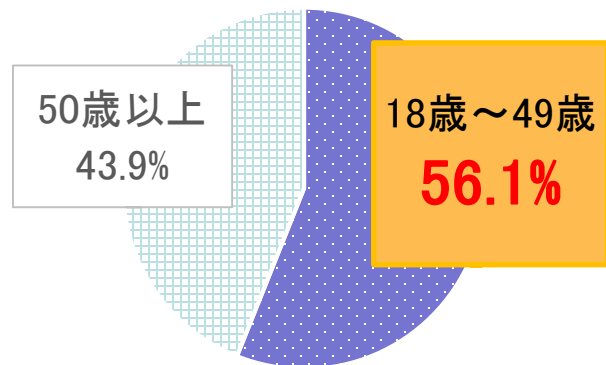


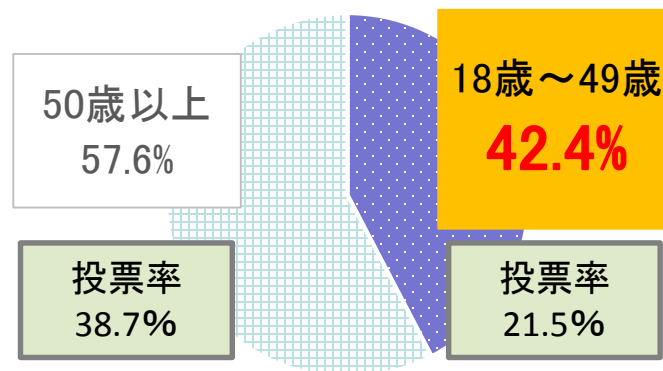
今までの投票行動のままでは、 若者・子育て中心世代の声を届けるのは難しい

杉並区の次期区長選挙における有権者数および 投票者数に占める世代別割合（見込み）

有権者数における
世代別割合*1



実際の投票時の
世代別割合
*2



「若者・子育て中心世代（18歳～49歳）*3」の人口は、
有権者数の過半を超えているにもかかわらず、投票率が低いため、
投票者数においては全体の4割程度と、少数派になっている

*1 平成30年5月1日時点の区人口統計（歳児別）より算出

*2 *1の年代別人口×推定投票率（平成26年杉並区長選挙、平成29年都議会議員選挙結果より当会算出）から算出

*3 平成27年厚生労働省人口動態調査における第1子出生時の平均年齢（母30.7歳、父32.7歳）、および合計特殊出生率の算出対象（15～49歳）より当会にて定義

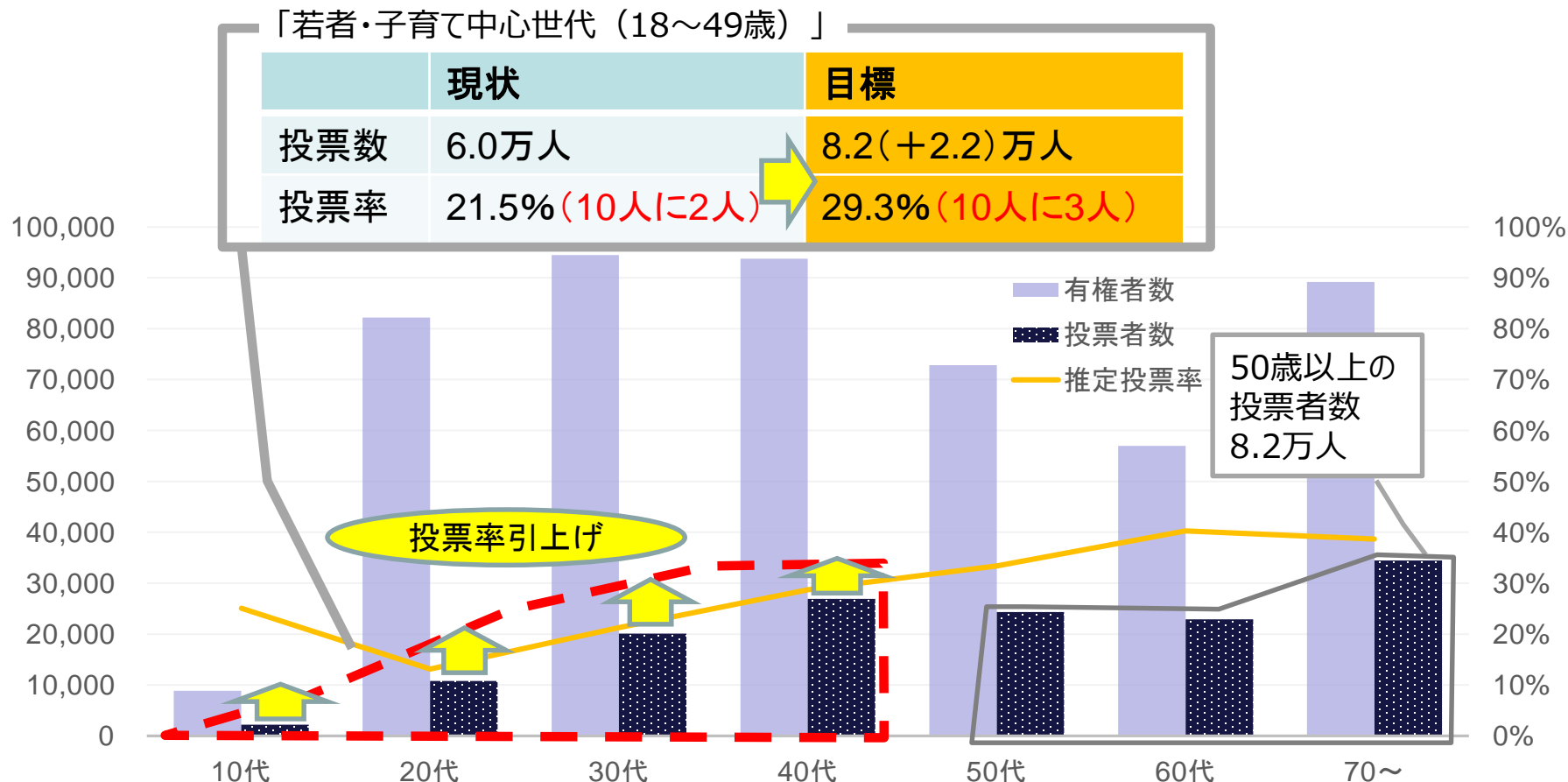
出所)

杉並区歳児別人口統計

平成29年7月執行選挙の記録、平成26年6月・7月執行選挙の記録
（杉並区選挙管理委員会事務局）

若者・子育て中心世代の声が過半数を占めるためには？

杉並区の次期区長選における年代別有権者数と投票者数（見込み）



「若者・子育て中心世代」の投票率を
現在の“10人に2人”から“10人に3人”に増やせば過半数をとれる